

かごしま近代文学館特別企画展

漫画家生活30周年

ここの史代展

鳥がとび、ウサギもはねて、花ゆれて、
走ってこけて、長い道のり



《びっぴら様》2004年
©ここの史代/コアミックス

2026年
10/3^土-11/30^月
かごしま近代文学館
文学ホール、常設展示室2階

休館日/火曜日、11月4日(水)※11月3日(火・祝)は開館します。

開館時間/午前9時30分～午後6時
(最終入館は午後5時30分まで)

観覧料/大人900円(720円)、
大学・高校生670円(530円)、
小・中学生450円(360円)

※常設展示もご覧になれます。()内は20名以上の団体料金

主 催/鹿児島市、公益財団法人かごしま教育文化振興財団

共 催/鹿児島市教育委員会

監 修/福永信

協 力/呉市立美術館、コアミックス、朝日新聞出版、日本文芸社、平凡社

企 画/青幻舎プロモーション

後 援/鹿児島県教育委員会、鹿児島県連合校長協会、南日本新聞社、
MBC南日本放送、KTS鹿児島テレビ、KKB鹿児島放送、
KYT鹿児島読売テレビ

かごしま近代文学館

〒892-0853 鹿児島市城山町5-1

TEL 099-226-7771

<https://www.k-kb.or.jp/kinmeru>



《描く人》2024年 ©ここの史代

《夕嵐の街 桜の国》カバーイラスト、2004年 ©ここの史代/コアミックス





『この世界の片隅に』2007年 ©この史代/コアミックス

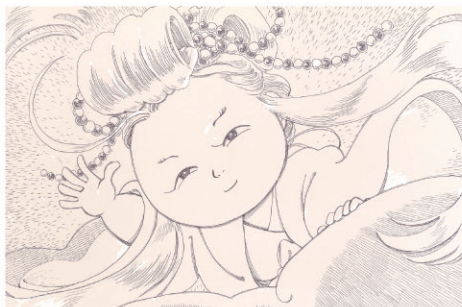
『夕凧の街 桜の国』

(手塚治虫文化賞新生賞、文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞)

『この世界の片隅に』(文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞)

で知られる、この史代の全貌に迫る
初の大規模原画展ついに開催!

『百一 hyakuichi』カバーイラスト、2021年
©この史代/日本文芸社



『ぼおるべん古事記 一 天の巻』表紙イラスト、2012年
©この史代/平凡社



『ギガタウン 漫符図譜』2017年
©この史代/朝日新聞出版



WEEKLY漫画アクション新人賞募集イラスト、1992年
©この史代



『日の鳥』2巻カバーイラスト、2016年
©この史代/日本文芸社

関連イベント

①このさんがライブペインティングをするよ!

- 日時/10月3日(土)13時頃~17時頃
10月4日(日)10時頃~12時頃
(少し早かったり、逆に遅く描き始めたりするかも。
休憩もするのでもないときもあります。)
- 会場/ライブラリー
- 参加/無料
- 申込/不要
(随時、見学は自由です)



『びっぴら帳』2000年
©この史代/コアミックス

②このさんが見どころをお話しするよ!

- 展覧会の見どころをお話します。お話しの内容は、
後日、音声ガイドとして、会場内で聞くことができます。
- 出演/この史代(漫画家)
福永信(小説家、本展監修者)
- 日時/10月4日(日)13時~15時
- 会場/メルヘンホール
- 定員/60名(先着)
- 参加/特別企画展チケットが必要
- 申込/申込専用フォーム
- ※受付開始8月19日(水)10時から



③ギャラリートーク

- 日時/11月3日(火・祝)13時30分~
- 会場/特別企画展会場
- 定員/20名程度(当日先着)
- 参加/特別企画展チケット ■申込/不要

④えほんのじかん

~この史代スペシャル~

- 日時/11月7日(土)14時~14時30分
- 会場/親子読書コーナー
- 対象/小学生以上
- 参加/無料(申込不要)



『こっこん』2005年
©この史代/エブリスタ

⑤このさんにお手紙が書けるよ!

会期中、ファンレターを書くコーナーを
設けます。会期後にこのさんへ直接お
渡しします。ふるってご参加ください。

展覧会限定の
オリジナル
グッズなどを
そろえたショップも
オープン!!

漫画原画390枚以上!

カラーイラスト、挿絵原画、
絵本原画、資料等も多数展示!



『かっぱのねわ子』
2001年
©この史代/
朝日新聞出版

この史代(1968-)は、漫画というフィールドで、
実に多彩な表現活動をしてきました。

お花屋さんが舞台のコミカルなショートストーリー連載『街角花だより』(1995)でデビューし、インコとの日常を描く4コマ漫画『びっぴら帳』(1997-2004)で人気を博します。ニワトリと少女のユニークな日々を綴った『こっこん』(1999-2001)も忘れることはできません。“命あるものと共にある日常”を見つめた、これら初期作品の世界観があって、『夕凧の街 桜の国』(2003/2004)、『この世界の片隅に』(2006-2009)へつながっていくことになります。

もちろん、それは到達点ではありません。この史代はさらに先へ進みます。漫画という表現に、誰よりも強い好奇心を持っているからです。

非凡なアイデア満載の『平凡倶楽部』(2006-2010)で読者を驚かせたかと思えば、『ぼおるべん古事記』(2011-2012)ではボールペンだけで『古事記』を忠実に漫画化しました。東日本大震災の翌年から連載を開始した『日の鳥』(2012-)は、妻を探す雄鶏の目を借りて、移りゆく時の流れをスケッチしています。

漫符を素材にした画期的な漫画図鑑『ギガタウン 漫符図譜』(2015-2017)、「百人一首」と遊んだ華麗なカラー1コマ漫画『百一 hyakuichi』(2018-2020)、「般若心経」をコロナ禍と重ね、2色の線が絡み合う長編『空色心経』(2023-2025)など、新しい漫画の可能性へ向けて、挑戦は続きます。

この史代の特徴として、アシスタントを使っていないことが挙げられます。そのため、どの線にも彼女の気持ちがかもっています。たった一人で描いた「一枚の絵」として原画を見ることで、これまで気づかなかった線の魅力、色の力を感じていただけることでしょう。

本展は、“かごしまスペシャルエディション”と名付けています。10代の頃の作品から連載中の最新作『イメル・フウリ』まで、この史代の全貌がわかる厳選した390枚以上の漫画原画のほか、新聞連載『荒神』(原作・宮部みゆき)の挿絵を過去最長の点数で展示いたします。また、発表時各方面で話題になった掌編『描く人へ』(2025)の鉛筆で描いた原稿パートなども、今回初めて展示いたします。もちろん、デビュー以前の貴重な資料の数々、膨大な挿絵、イラスト原画、絵本原画、ブログ「この日の日々」に登場するスケッチブック、執筆風景を記録した映像などもご覧いただけます。この史代の過去、そして現在進行形の「今」がわかる展覧会になっています(未来も感じられるかも)。楽しみに待っていてください。

＜プロフィール＞この史代

1968年生まれ。広島大学中退。放送大学卒。1995年漫画家デビュー。『長い道』『さんさん録』『空色心経』など作品多数。『夕凧の街 桜の国』で多くの読者に感動をもたらす。アニメーション映画『この世界の片隅に』(監督・片渕須直)が大ヒットを記録。最新刊に『ヒジヤマさん 星の音 森のうた この史代短編集』。現在、「小説新潮」で1ページ漫画『かぐやサン』を、「週刊漫画ゴラク」で『日の鳥』に連なる新作漫画『イメル・フウリ』を連載中。ブログ「この日の日々」では日々の写真やスケッチを公開している。

ブログ「この日の日々」日々の写真やスケッチを公開中!▶



アクセス

【鹿児島中央駅から】

- 市電 鹿児島駅前行き「朝日通」下車、徒歩7分
- バス 天文館、市役所方面行き「金生町」下車、徒歩7分
- カゴシマシティビュー「西郷銅像前」下車、徒歩3分
- 車 約10分

駐車場のご案内

- 専用駐車場13台(軽9台、一般車2台、身障者専用2台)
※外壁工事のため、一部利用できない場合があります。
- かごしま近代文学館・メルヘン館・鹿児島市立美術館共用駐車場31台※
- 市役所みなと大通り別館立体駐車場※
※駐車券を総合案内までお持ちください。(無料)
- 団体用バス専用駐車場 大型バス3台(要予約)



かごしま近代文学館

〒892-0853 鹿児島市城山町5-1 TEL 099-226-7771
https://www.k-kb.or.jp/kinmeru